



Title	直系家族の周期的発展の理解と今日の周期研究への期待
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	200字詰め 17枚。『国民生活研究』昭和 40年 9月号に、「家族周期の新たな動向」を掲載。
Citation	国民生活研究, 9
Issue Date	1965-09
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77329
Type	manuscript
File Information	D013_01.pdf



No.

(一) 直系家族の周期的発展の理解と今日の周期研究

ロシアの小農の社会の研究、ギヤノフの考へに學んでソビエツが米ロ農民の一代家族に、ついで結婚後の生活の年次的变化を家族の構成人員の増減と經營耕地の拡大縮小に、一宅の傾向が有つてゐることを示してゐるのに、シントを得つ、新か日本の直系家族の世代的進行の内に無限に反覆する周期の極する事を発見したのは、全く知られてゐないと思ふ。

① 一代家族の時の発展の連続の内に一つの大

① 直系直系家族の世代的発展の中に周期性があるとはすれども、熟した年次の発展を追つて行く中に周期性のある事を発見して、小躍した感激を

鈴木栄太郎稿

昭和十一年の秋の事である。

の期待

その
か

冬な山か
見おされ
二人の結
び始めて
始まり
その死

亡^レ統^レのこの時^レの變化の體^レの存^レす^レ可^レ

[illegible]

展して
折
思
は
れ
て
い
た
由
あ
家
族
の
内
に
一

代金
 以金
 同
 一
 の
 格
 式
 で
 互
 覆
 レ
 2
 現
 金
 の
 受
 取

他の形式の
あるものを
花見したの
は畢な。模

米口の東北社会界

[illegible]

研究が事ぬるれ大^{てき}げん^とも
一世代家族の^て恩

期は変化
12 設定
室々
水井
期
の
区
分
の
型
も
変
化

て来た周期の終り

今更
 一
 改
 さ
 れ
 た
 考
 へ

鈴木 栄太郎

なりとなつ

2
11
J₀

7. 6

図に

△住居のデザインを設計に関連させているもの、税金を加重を設計
に関連させているものもあるが、要は莫大の向きの問題が主である。
東京と田舎の都市との三者における比較して、このものもある。
消費支出は、財貨やサービスの種類と量も設計の比較したもので
ある。

④

周知の初期には夫婦の親元が、後期には子の配偶者も孫が
世帯主として同居する。更に注目している人もあるがそれか
固定した型と変わっているのか、必ずしも固定である。日本でもそれか
固定したのか、大きな意味があると思われる。

7. $\frac{1}{2} \log \frac{1}{2}$ 変化す

即ち家族構成
新地所有量、
暮合し向
向あり減
た

3

理解した

2. 項の総数

和直子家族の歴史

り
お
い
い
ま
の
は
強
い
な
い
と
い
へ

各時占大に於ける

和正家時代の流行の内

針家秘傳

の生産力の総和の比率を求め

その家族の盛衰果ての浮沈の周期を

したが、この回を常務力と生産果の

現象によ

7
v
下
x
九

お
い
d
|

10/10
✓
A
10
✓

一、代金の一括償還を五年毎に区切り

家族賞の变化の進行を以て、各家族賞は事業

生産や消費の単位となは
は、
が、
共同

平家

④ 米のにおい
お葉裏へ

お葉裏へ

の起る大

らしく家族を成立させた場合の外には直に家族
 制度の世界には新家族の成立はなかつたの
 であらう。二人の男が結婚して分家した年が

と新らしい一姓の家族は発生したのであるか

分家が完全に成立して直に家族の列に入り

その家族の成員は完全な一姓の家族として直に家族

となる。これは結婚後三十年の年月の経過

が必要であつた。それはまた分家した年が

は何かいつて本家の庇護が必要であつたと思

ふ。結婚して三十年目から、家族成員の構成

か、それよりむしろ家原的に

大本家など古くからの家族と同一の組織のものなり。故に二の年を起点として直子家族の規則が変化が二十五年を一期として無限に反覆するものである。

同じと原する項例えば長子の結婚とか末子

の結婚とかによりて時期を区切るのである。

して五年毎の変化の中にあるにそのかゝる事柄は

これによりて米口の周期の研究に取り入れらる

これによりて新の直子家族の進歩衰へは見落さる

こいよもかば何れもない様である。米口の周期は

米口の周期は

中の思ひ込みの時期の精進は新の直子家族の周期の

けれど、各級段について詳しくその生活の型
 と取りあげようとするのは却りがない。結婚し
 ておろ子をとかな、第一段の時期についで、
 農村と都市で結婚命令がやゝ異なり、地域社会
 の活動に関心が深いと共に、適当な子才をさ
 く時、^{（下）}小作費は負担をささえて節約
 す。第二段は女子の誕生を止めて好すり来
 子の誕生をまて、農場では六、五年、^{（田舎）}市街地では四
 、八年都市では三、五年位である。この段では
 子供の教育への関心が高まる。第三段は長子が

とこころである。

内容のねじり

十四才以上三十才に達すると同くこの間に子供が結婚や就職の為に家を出て行く時期で家_あは。讀書_がや_る才の時期は少ない。子供の教育費娯楽費が多い。近代の居住の率は比_に時期が低い。子供は傷_いていく病_がが_い出費も多い。第四段は末子の結婚をもつて始まり夫婦の一人の死を以て終り。第四段の終末はこの家族自身の終末である。子供の教育がすんで将来の力に蓄え、必要かわくから貯金してやうい。衣料費、娯楽費、教育費、身のまわりの

田中

No.

費用をいかに減らすか。映画を見る時が他のケルソの二
倍から三倍に上がった。

家族生活について

その如く家族は周期の進行と共に経済活動
にあり、変化と共に社会活動に参りて一室の低
向を見、予が来る予を明らかにしてゐる。

世間の歩み、おける周期のこんな研究は都
市と農村の比較大企業と小企業、都市の職場の相
異を見、予が来る予が来る大企業における職
の一化の地位上昇の段階と収入も職の内容も
や、固定したのか、入社後退社するの周期

田中

[Handwritten signature]

のとして此種の職工周期の研究は如何なる
 べきか。此の如きものである。

大衆の最高幹部に達した人の数に於ては
 如何なる可成は、その人老の安定だけでは
 なく何代かの子孫を従ふに余りあるものと
 なる。

日本政治家にも矢張り周期がある。

所得の代の

彼等の数に於ては、私財を残した政治家の所得は
 彼一人の所得、つまり私利から見ては、
 一般に其の種の私利の有する。又、公衆の利

一般的

家族の周期より
戦場の周期

に
一般の液
目長恨形

(三) ~~(二)~~ は日本^にあり。現在^{（余）}其の混亂の時代

(四) 俟其仕而後時可移序の同

(五) 周期的基本形式 $\rightarrow$ 生命と梁木の現

家私團圓
私作標
家私制
行工兒

十世子定族
ルフニモ
解ッて見
ル。河川の泉
族の

古きを
逆算す
は百年
の歳を
得るべ
し

✓
(三) 買取期間の周知と復讐を

都市の
周知
（浮世）
時代の
長短
職

體

(一) 直子宋族の開始

お立ち上がり
は石を
溜、石
の溜、石
意

女死之時

男死之時

第三子生之時

第二子生之時

第一子生之時

22

$20 + 6 + 26 = 52$
 $52 + 22 = 74$

22

第三子生之時

第二子生之時

第一子生之時

22

城戸

男

子第一

子第二

子第三

女

子第一

子第二

子第三